

事業評価報告書

1 地域課題の名称

アニメを通じた町の活性化

2 市町村名及び評価部局課名

上市町

3 課題の概要

上市町出身の細田守監督作品「おおかみこどもの雨と雪」の舞台モデルとなった上市町浅生にある古民家、通称「花の家」には、年間約1万人の観光客が訪れているが、他の観光スポットや飲食店、商店等と有機的に結び付けた観光ルートが整備されていない状況である。

このことから、「花の家」に訪れる観光客の回遊性を高め、町内の人や場所とのつながりを深める仕組みづくりにより、「花の家」の集客効果を地域経済へ広く波及させ、町の関係人口の拡大と地域経済の活性化を図るもの。

4 解決策の提言に対する評価(観点及び分析等について、具体的に記載願います。)

解決策の提言が、自動車で移動する県内在住の家族や夫婦、カップルをターゲットとしたマイクロツーリズム型観光プランに軸を置いており、コロナ禍の状況を踏まえた適切な内容であった。

学生の3チームからの提言では、丸山総合公園バーベキュー広場での鍋料理の昼食や、帰宅後の晩御飯を考えた商店街等での特産品の購入、レンピの QR コードを特産品に貼るアイデアなど、観光学を学ぶ学生らしい切り口で、これまで町職員には無かった企画を提案してもらえた。自家用車の観光客の導線距離と移動時間を考慮しつつ、午前中に「花の家」に訪れた観光客を広範囲で移動させ、飲食や買い物を含めて1日楽しませるプランとなっており、また、家に帰っても晩御飯の特産品料理で町の魅力を感じることができるなど、地域への経済効果や関係人口の拡大が図れる内容を各チームが提言している。

FABE 分析では、Feature(特徴)として上市町を“愛の観光地”と分析し、Benefit(顧客利益)は“愛の観光地で過ごす2人の時間”とした。Advantage(利点)では、「ほどよい田舎」という新鮮なキーワードで町を分析するなど、若者目線による柔軟な発想が見られた。しかし、コロナ禍の影響により、花の家に訪れる観光客へのアンケート調査が実施できておらず、Evidence(証拠)となるデータ収集や分析、ニーズ把握が乏しいことから、提言による効果の説得力に欠ける点が残念であった。

当町では、今回の研究をきっかけに、富山福祉短期大学と包括連携協定を締結しており、来年度以降も長期的な取組として同大学と地域課題の解決に取り組むこととなった。また、町職員の上市町に関する質問に対して「行ったことが無い」、「興味が無い」と回答した国際観光学科の学生たちが、町の課題の解決策を考える活動の中で「上市ファン」になってもらったことも、町にとっての今回の研究の大きな成果であった。